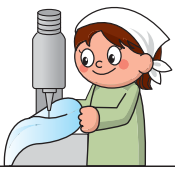
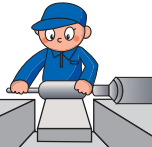
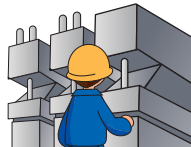
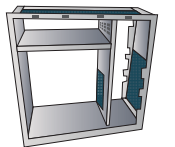


業種別下請関連企業の 現況と見通し



(7月15日現在)

業種加工内容	ポイント	現況	見通し
【繊維・繊維製品】 	今期 平成14年4月～6月「売上が減少した」が前期の31%から52%に、「利益が減少した」が38%から63%に大きく増加している。こうした状況を反映して「業界全体が下向き」が85%で全業種中最高となっている。縫製品については、夏場に端境期を迎えることもあり、翌期(第2四半期)も苦しい状況が続くと見られる。	 かなり悪い	 かなり悪い
【合成樹脂製品】 	「売上が増加した」が前期の0から22%に増え、全業種中最高である。さらに、「業界全体が上向き」も18%で全業種中最高となっており、IT関連を中心として受注回復の兆しが見られる。「環境負荷の少ない製品の引き合いが多い」とする企業もあり、環境対応が今後の業界全体の課題と見ることができる。	 普通	 普通
【鑄造】 	「売上が増加した」及び「利益が増加した」がともに前期の0から14%に増えた。しかし、50%の企業が「操業度80%未満」としており、生産能力にはいまだに余力がある。 業況感について「わからない」が29%もあり、先行きに不安を感じている企業が多い。	 悪い	 悪い
【鉄骨・製缶】 	「売上が増加した」が前期の11%から6%に減少した。さらに、「利益が減少した」が72%から80%に、「受注単価が値下りした」が39%から54%に増加しており、受注減に単価下落が追い打ちをかける形となっている。	 かなり悪い	 悪い
【機械加工】 	「売上が増加した」が前期の0から18%に、「利益が増加した」が2%から16%に増加している。「操業度100%超」「100%超120%未満」及び「120%以上」の合算も9%から28%に増えており、受注は回復傾向にある。発注企業の海外シフトによる受注減を懸念する企業も少なくないが、みずから海外展開を進める企業も出てきた。	 普通	 普通
【プレス・金型】 	「売上が増加した」が前期の5%から21%に増加した。忙しくて一部受注を断っているとする企業もあった。その反面「受注単価が値下りした」が75%で全業種中最高となっているほか「利益が減少した」も前期の63%から74%に増加しており、収益的には依然として厳しい状況が続いている。	 普通	 普通
【金属製品】 	「売上が減少した」が前期の80%から70%に減少しており、回復の兆しが見られる。しかし、その一方で「受注単価が値下りした」が前期の60%から72%に増加しており、単価下落の傾向は改善されていない。 「新規の引き合いはあるが、取引成立には至らない」という意見もある。	 普通	 普通
【組立】 	売上が「増加した」が前期の6%から13%に増加した一方で「減少した」が79%で全業種中最高となっており、企業間に格差が見られる。IT関連を中心とする一部の企業には動きが見られるが、夏以降、工場集約や生産機種の変更等、発注企業の都合による受注減が確実に増えている企業もあり、今後も予断を許さない。	 かなり悪い	 かなり悪い

天気図は、「下請中小企業経営動向調査」結果並びに下請取引あっせん業務の窓口から見た生産状況、収益性を総合的にとらえたものです。

『精密板金』『表面处理』については『金属製品』に取りまとめています。

お問合わせ先

取引支援課

TEL 019-621-5385 FAX 019-624-5480

URL <http://www.joho-iwate.or.jp/torihiki/> E-mail sitauke@joho-iwate.or.jp